

平成 29 年度定例会 3 月会議開会挨拶（平成 30 年 3 月 9 日開催）

平成 29 年度定例会 3 月会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

今、3 月会議は、町政執行方針に示された重要案件に係る各会計の新年度予算を審議する重要な議会であり、活発な議論が展開されます事を願っております。

政策については、行政評価に繋がる事を意識し、精度を高め策定されてきたと思いますが、今後の厳しい財政状況に配慮し、「最小の経費で、最大の効果」を念頭に算定根拠を明確にし、理解を得て共通の認識を持つことも大切ですし、議会・行政ともに政策の過程をさらにわかりやすく町民の皆様を示していく努力も必要です。

お金の使い方は四つしかないと言います、

- ①自分の金を自分のために使う、
 - ②自分の金を他人のために使う、この二つは自分の金だから効率をよく考えます。
 - ③他人の金を自分のために使う、
 - ④他人の金を他人のために使う、これらの場合、あまり節約とか、効率を考えない方向になりがちです。
- この二つにかかわるのが政治と行政だと言います。

「他人のお金でも自分のお金を使うように節約・効率（費用対効果）を考え他人のために使う」のが公金の使い方であり、そのことを常に意識しなければ健全な財政運営が難しくなっていくと言います。

全国的に人口減少と高齢化が続く状況で、議員のなり手不足が深刻化し地方議会をどう維持するかが課題となっておりますが、総務省の有識者研究機関が、「兼職禁止の制限緩和」・「専門議員による集中専門型」を盛り込み、自治体の選択を加味した新制度を提言し、地方自治法改正を目指すとの報道があります。

地方自治の趣旨から、国の主導による改革ではなく、地方から声を上げるべきであるとの指摘も多くあります。そもそも、議員の定数・歳費を決めるのは自治体・議会であり、個々の議会が、当事者として問題意識をしっかりと持ち、取組んでいかなければなりません。

最近の報道に見る国会の審議は、不正確な基本データによる裁量労働制の適用拡大の削除、決裁文書の改ざん疑惑、不誠実な答弁の繰り返し等々、見るに忍びない惨憺たる状況がなお続いておりますが、模範とならない反面教師ととらえ、福島町議会としても、町民の信頼を得、負託に応えるため一層研鑽に励み、課題に向かって着実に活動を続けていかなければならないと思っております。

3 月 6 日の啓蟄も過ぎ本州からは、桜の便りが聞かれる時節となりました。

例年より除排雪で苦勞しましたが、そろそろ「ふきのとう」「福寿草」が芽をだし、春のいづきを感じることが出来るものと思います。朝晩の寒さももう少し、出席者各位には、健康に留意され、お体ご自愛の上、本定例会の議事運営にご協力をいただきますよう、お願い申し上げ開会の挨拶といたします。